



府中市出口町

府中市荒谷町く 福山市神辺町編

やっこの思いで坂根峠を越えると、府中市荒谷町に入り、出口町から市街地にさしかかる。府中は、古くは備後国府がおかれ、この地方の政治・経済の中心として栄えてきた。銀の道はここからほぼ平坦な道を東に進み、福山市新市町、駅家町を過ぎて神辺の町に入る。そのルートはおおむね北寄りの道を通っていたと思われる。道沿いには辻堂や地藏像、常夜灯など、古道らしい風景が随所で見られる。

- この区間の主な見どころ
- 坂根地藏
 - 六地藏
 - 別所路(わかりょうじ)の道標
 - 菅茶山の記念碑
 - 川上の梵字岩
 - 甘南備神社
 - 出口町の番所跡
 - 出口町の道標
 - 旅籠「恋しき」
 - 日本一の石灯笼
 - 元町の摩崖仏
 - 首無地藏
 - オオムラサキの里
 - 府中市歴史民俗資料館
 - 広谷の常夜灯
 - 吉備津神社
 - 新市の道標
 - 戸手の地藏堂
 - 万能倉の道標
 - 福山藩番所跡
 - 荒谷の古道
 - 荒谷の常夜灯



吉備津神社

「吉備津神社」は備後一宮として参拝者も多く、別名一宮さんと呼ばれている。創建は八〇四年と伝えられるが、神社名が最初に確認できる史料は、京都八坂神社の一八八四年の記録である。境内には、一六四八年に再建された本殿(国指定重要文化財)や神楽殿(県指定重要文化財)などの建造物が、一八棟現存する。古い絵図をみると、神道系の建造物、仏教系の建造物、民家などが確認でき、神仏習合の時代を克明に描き出している。また、神社周辺の山林は、山城として整備され、神社そのものが都市であり、城郭であったことがわかる。



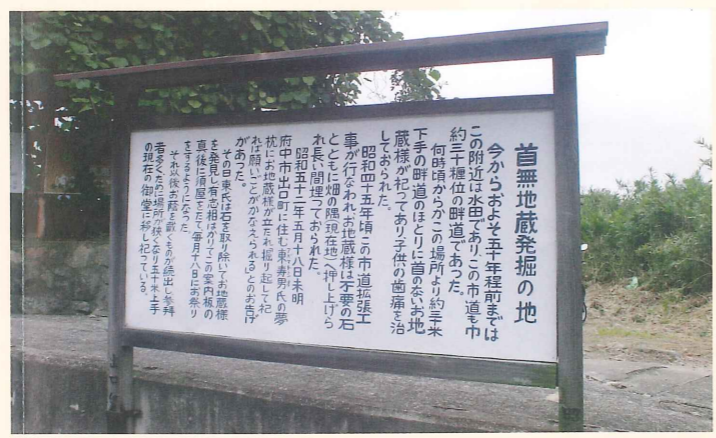
吉備津神社

金比羅とは何か

金比羅は、サンスクリット語の「グンビラ」からきた名前だ、ガンジス河に棲むワニを神格化したものと言われている。これがやがて仏教に取り入れられ、釈迦が修行時代を過ごした王舎城内にある「ヒフラ山」の守護神とされた。この山が、ゾウの鼻に似ていることから「象頭山」とも呼ばれていたと言います。四国の金刀比羅宮は海上の守護神、海難救済の神として全国に知られているが、最初は松尾寺というお寺の守り神として勧請されたものに過ぎなかった。金比羅信仰は海上交通の広域化と共に、瀬戸内の水先案内を業とする人々を通じて全国に広がり、江戸の町では、商売の神様あるいは防火の神様として庶民に信仰されていくようになる。また、金比羅は水の神、雨乞いの神としての側面もあり、農村地帯へも深く浸透していった。

首無し地藏さん

今からおおよそ五〇年前、このあたりは水田地帯で、道路は、わずかに三〇センチの中あぜ道があるに過ぎなかった。この畦道のほとりに、首のない地藏さんがまつられており、子どもの歯痛をなおしてくれるという評判であった。いつしか地藏も忘れられ畑の隅に追いやられ埋もれてしまった。昭和五二年に、ある人の夢枕にこの地藏さんが立ち「掘り起こしてくれば願いをかなえてやる」というお告げがあったそうだ。そこで有志が協力して地藏さんを掘り起こし、もとの場所へ安置して、毎月十八日にお祭りをし続けていた。お陰でご利益を得る者が続出し参拝者が増えてきた。その場所では狭くなったため、現在のお堂の所へ移動し祀ったという。



首無し地藏発掘の地



甘南備神社前金比羅常夜灯



府中市中心街

オオムラサキ

国蝶オオムラサキは、幼虫の時期にはエノキの葉を食べ、成蝶になるとクヌギやコナラの樹液を吸う。羽根を広げた成蝶の大きさは、オスが一二センチ位、メスは一三〜一五センチ位もあり、毎年六月中旬から八月上旬にかけて、その美しい姿を見せてくれる。



オオムラサキ
日本レッドデータブックに希少種として記載されている。



オオムラサキが生息する僧殿地区

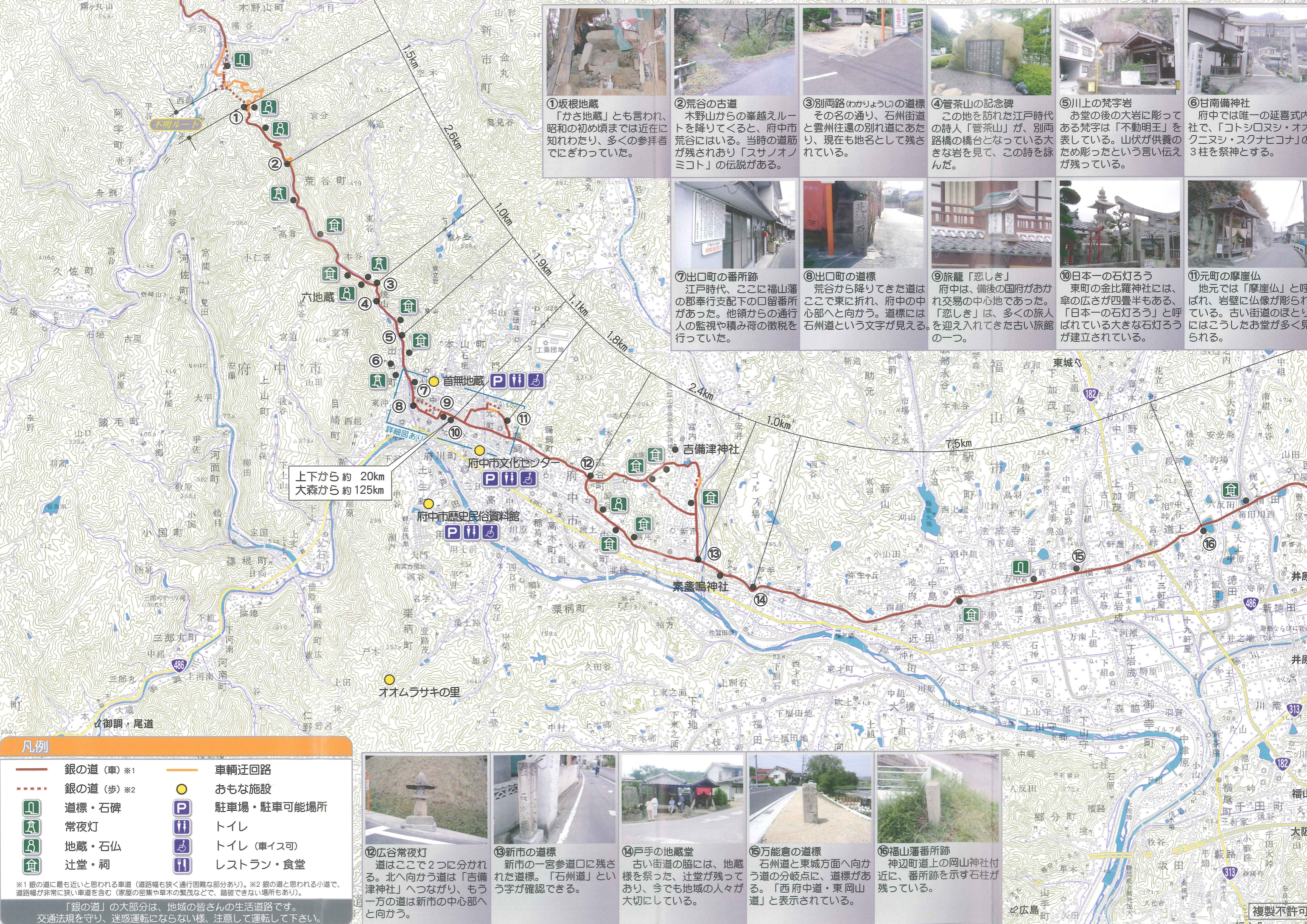


オオムラサキの里

- 主な連絡先
- 府中市役所 0847-43-7111
 - 府中市教育委員会 0847-43-7176
 - 府中市歴史民俗資料館 0847-43-4646

- 銀の道関連ホームページ
- 石州道 銀の道 街道ガイド
<http://www.fukuyama-fuchu-kouiki.jp/miti.html>
 - みち紀行 温泉津から尾道笠岡へ 新市町
<http://www.chugoku-np.co.jp/tokusyuu/mitikikou/m020908.html>

この地図は、国土地理院長の承認を得て、同院発行の5万分1地形図を複製したものである。(承認番号 平18 中復 第150号)



①坂根地蔵
「かさ地蔵」とも言われ、昭和の初め頃までは近在に知られ、多くの参拝者でにぎわっていた。



②荒谷の古道
木野山からの峯越ルートを下ると、府中市荒谷にはいる。当時の道筋が残され「フサノオノミコト」の伝説がある。



③別両路(わりようじ)の道標
その名の通り、石州街道と雲州往還の別れ道にあたり、現在も地名として残されている。



④管茶山の記念碑
この地を訪れた江戸時代の詩人「管茶山」が、別両路の橋台となっている大きな岩を見て、この詩を詠んだ。



⑤川上の梵字岩
お堂の後の大岩に彫ってある梵字は「不動明王」を表している。山伏が供養のため彫ったという言い伝えが残っている。



⑥甘南備神社
府中では唯一の延喜式内社で、「コシロヌシ・オオクニヌシ・スクナヒコナ」の3柱を祭神とする。

上下から約 20km
大森から約 125km

凡例

- 銀の道(車)※1
- 銀の道(歩)※2
- 道標・石碑
- 常夜灯
- 地蔵・石仏
- 辻堂・祠
- 車輛迂回路
- おもな施設
- 駐車場・駐車可能場所
- トイレ
- トイレ(車イス可)
- レストラン・食堂

※1 銀の道に最も近いと思われる車道(道路幅も狭く通行困難な部分あり)。※2 銀の道と思われる小道で、道路幅が非常に狭い車道を含む(家屋の密集や草木の繁茂などで、踏破できない場所もあり)。

「銀の道」の大部分は、地域の皆さんの生活道路です。交通法規を守り、迷惑運転にならない様、注意して運転して下さい。

2006.4



⑫広谷常夜灯
道はここで2つに分かれる。北へ向かう道は「吉備津神社」へつながり、もう一方の道は新市の中心部へと向かう。



⑬新市の道標
新市の一宮参道口に残された道標。「石州道」という字が確認できる。



⑭戸手の地蔵堂
古い街道の脇には、地蔵様を祭った、辻堂が残っており、今でも地域の人々が大切にしている。



⑮万能倉の道標
石州道と東城方面へ向かう道の分岐点に、道標がある。「西府中道・東岡山道」と表示されている。



⑯福山藩番所跡
神辺町道上の岡神社付近に、番所跡を示す石柱が残っている。

複製不許可